



研究者名※	関根 愛莉	学位※	博士(学術) 滋賀県立大学大学院
所属※	家政学部 食物学科	職名※	助教
連絡先	sekinea@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/asekine		
研究分野※	食生活学/疫学・予防医学		
研究キーワード※	脳神経科学, 疫学, 食行動, 栄養調査		
共同研究・競争的資金等の研究課題	特になし		
社会貢献・産学官連携活動等	特になし		
受賞歴	日本アミノ酸学会 第9回学術大会 優秀ポスター賞 受賞 (2015年)		

研究領域	食生活学/疫学・予防医学	(SDGs)	
研究テーマ※	精神機能の改善に有用な栄養成分の解明 食習慣が精神状態におよぼす影響に関する疫学研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>①内因性神経調節物質キヌレン酸を変動させる因子と栄養成分の解明 神経調節因子として知られるキヌレン酸(KYNA, トリプトファン代謝産物)に着目し, 脳内KYNA産生を変動させる因子とKYNA産生を制御する栄養成分を解明することを目的として研究を行っている. 動物実験により, 分岐鎖アミノ酸をはじめとするアミノ酸が脳内KYNA産生を抑制し, 脳環境を適正な状態に維持する可能性が明らかになった.</p> <p>②中学生における食行動心理と食生活ならびに栄養素摂取状況との関係 中学生を対象に修正日本語版食行動心理尺度質問票, 簡易型自記式食事歴法質問票(BDHQ)を用いて調査を行っている. 食欲以外に食行動に影響を及ぼす心理特性として, 体形を気にして摂食を抑える「抑制的摂食」, ストレスなどに生じる「情動的摂食」, 味や匂いなどの外的刺激に誘発される「外発的摂食」の3つがある. これらの心理特性が実際の食生活ならびに栄養素摂取にどのように影響しているか解析を行っている.</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>①脳環境を適正に維持する食品の開発や食事パターンを解明し, 提唱することが可能になると考えられる.</p> <p>②食行動の心理的特性と食生活や栄養素摂取との関係を明らかにすることで, 心理特性を考慮した栄養教育手法の開発や, 栄養施策の提案などの新たな公衆栄養学的アプローチを行うことが期待できる.</p> <p>【研究方法の特色】 食事調査, 心理学的検査を用いた栄養疫学研究を行っている.</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・Sekine A, and Fukuwatari T, Acute liver failure increases kynurenic acid production in rat brain via changes in tryptophan metabolism in the periphery. Neuroscience Letter 701:14-9, 2019 ・Sekine A, Kuroki Y, Urata T, Mori N and Fukuwatari T, Inhibition of large neutral amino acid transporters suppresses kynurenic acid production via inhibition of kynurenine uptake in rodent brain. Neurochemical Research 41(9):2256-66, 2016 		

